

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
16	伊東 美加（7）	<p>1. 富士市子どもの権利条例の活用について</p> <p>1989年11月20日、第44回国連総会において、世界中全ての子どもたちが持つ権利を定めた児童の権利に関する条約が採択されました。これを受けて、日本においては1994年にこの条約が批准され、児童の権利保護が重要視されるようになりました。2001年に川崎市において全国初となる川崎市子どもの権利に関する条例が施行され、子どもの権利条約総合研究所の調べによると、2022年10月現在、62の自治体が子どもの権利に関する総合条例を制定しており、本市においても、県内他市に先駆けて、既に富士市子どもの権利条例が制定されています。</p> <p>この条例は、全ての子どもが命を守られ、自分らしく生き、成長し、及び発達していくことができるよう、子どもの権利を保障するとともに、子どもに優しいまちづくりを推進することを目指して、令和4年4月に施行され、既に1年以上が経過しています。条例制定に至るまでには2年をかけ、その間、子どもたちや関係者の声を条例に反映させるべく、様々な手法が取り入れられ、こどもの権利条例策定懇話会でも熱い議論が交わされました。</p> <p>こうして出来上がった富士市子どもの権利条例ですが、条例の施行はゴールではなくスタートであり、この条例をいかに活用して、子どもたちに優しいまち富士市にしていくのが重要だと考えます。特に、条例の周知については、まずは条例の存在を知っていただくことから始めて、子どもの権利を正しく理解していただくこと、この条例の重要ポイントである権利救済の仕組みを知っていただくことも重要であると考えます。</p> <p>そこで、令和4年度の富士市子どもの権利条例に基づく事業の実施状況と今後の見込みについて、以下お伺いいたします。</p> <p>(1) 富士市子どもの権利条例に基づく令和4年度の事業の実施状況について</p> <p>(2) 子どもなんでも相談の令和4年度の相談件数と相談内容について</p> <p>(3) ほっとデジタル相談・ふじの相談件数と対応状況について</p> <p>(4) 令和4年度の富士市子どもの権利救済委員の活動状況について</p> <p>(5) 令和5年度の周知活動について</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
17	下田 良秀（17）	<p>1. 富士市におけるSTEAM教育やSTREAM教育等の学習の推進と受皿となる公益施設の展開、及び富士駅北口や新富士駅南口周辺への高等教育機関の誘致状況について</p> <p>近年ではAIやIoTなどの急速な技術の進展により社会が変化してきております。昨今、そのような中で多様な課題が生じており、文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等の学びを基盤としつつ、様々な情報を活用しながら、それを統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められています。</p> <p>文部科学省では、STEM（Science、Technology、Engineering、Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習をSTEAM教育として推進しています。</p> <p>また、最近ではこのSTEAMにR（Robotics－ロボット、Reviewing－評価する力等）を加えたSTREAM教育が注目されてきています。</p> <p>富士市においても産業を支える人材育成や、富士市の教育をブラッシュアップして子育て世代が富士市で子供を育ててもらうようにすることで、人口の確保につなげていくなど、時代環境に適応した教育を進めていかなければと考えています。</p> <p>そこで、以下3点について質問いたします。</p> <p>(1) 富士市におけるSTEAM教育やSTREAM教育等の推進について。</p> <p>(2) 富士駅北口の公益施設に整備予定である「(仮称)ものづくりふじSTEAMラボ」について、どのように注力していくか。</p> <p>(3) 富士駅北口や新富士駅南口周辺への高等教育機関の誘致状況について。</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
18	福永 意人（1）	<p>1. 選挙投票率の向上における取組について</p> <p>令和5年4月23日に執行された富士市議会議員選挙においては、投票率40.92%で過去最低を記録した。さきに執行された富士市長選挙、県議会議員選挙が無投票になったことにより、投票の機運が高まらなかったことも一つの要因だと考えられる。しかし、直近3回の投票率は50%を下回っており、他の選挙も含めて本市の投票率は下降の一途をたどっている。</p> <p>今回の富士市議会議員選挙においては、従来どおり富士市役所及びイオンタウン富士南に期日前投票所が設置された。全体の投票率は前回選挙よりも約2%（4292人）低下した反面、全体の投票者数に占める期日前投票者数は約5%（3432人）上昇しており、その需要の高さが伺えた。また、今後は高齢化率の上昇に伴い、身体的な不自由さなどから投票行動が困難になる有権者の増加も予測されるため、移動支援や移動投票所の選択肢も必要になると考えられる。さらに、従前からの課題である若年層の投票率低下にも積極的に対策を講じるべきである。</p> <p>そこで、以下4点について質問する。</p> <p>(1) 富士市議会議員選挙が過去最低の投票率を記録したことについて、どのように受け止めているか。</p> <p>(2) 平成31年4月21日執行の富士市議会議員選挙の結果を踏まえて、この4年間で投票率の向上のために講じた対策は何か。</p> <p>(3) 富士市における主権者教育の取組によって政治的関心の向上にどのような効果が出ているか。</p> <p>(4) 若い世代の政治的関心を高めるために高校生議会を導入してはどうか。</p> <p>2. まちづくり協議会における人材確保について</p> <p>本市においては、平成26年に、市内26地区全てで、地区住民主体のまちづくり組織であるまちづくり協議会が設立された。また、各地区では令和4年度から令和8年度までの5年間で計画期間としたまちづくり行動計画が策定され、地区の目標とする将来像、課題、活動方針などを基に地域コミュニティの強化が図られている。しかし、大多数の地区では人間関係や地域に対する所属意識の希薄化、役員の成り手不足が共通の課題となっている。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各種行事の中止、規模縮小などにより、その動きに拍車がかかっている。持続可能なまちづくりを実現する上では、役員の負担軽減はもちろんのこと、いかにして人材を確保するかが重要である。</p> <p>そこで、以下3点について質問する。</p> <p>(1) 各まちづくり協議会では、人材確保のために、具体的にどのような取組をしているか。</p> <p>(2) 行政では、まちづくり協議会の人材確保のために、具体</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
18	福永 意人（1）	<p>的にどのような支援をしているか。</p> <p>(3)（仮称）まちづくりボランティア登録制度を設け、各地区の地域行事等の人材不足を補う仕組みを導入してはどうか。</p>	<p>市 長 及 び 教 育 長 担 当 部 長</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
19	新家 大輔（9）	<p>1. 子供たちの体力低下について</p> <p>新型コロナウイルスの影響は、活動の自粛やスポーツ実施率の低下など、子供たちの体を動かす機会にも大きな影響を与えました。また、テレビゲームやスマートフォンが普及し、小学生の憧れの職業にユーチューバーが堂々とランクインする時代です。そのような状況の中、子供たちの心身への影響を考え、体を動かす環境など、今、学校に求められているものを再確認する必要があります。</p> <p>昨年、小学校の休み時間見守りボランティアに参加した際、昨今の気候変動の影響で、夏場の気温の高い日中は、熱中症の回避の観点から外遊びを実施しない日を多く目撃しました。休み時間の外遊びは、体を暑さに慣らすことや、体力の向上に重要な時間だと考えます。</p> <p>この点を捉えて、以下質問します。</p> <p>(1) 外遊びの可否の基準を設けているのか。</p> <p>(2) 外遊びの過度な抑制は子供の健全な成長を阻害すると考える。遊び方を工夫することでいかようにも対処できると思うがいかがか。</p> <p>(3) 日中の気温が高いときの運動を避けるのであれば、朝運動の実施は考えられないか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
20	石川 浩司（4）	<p>1. 富士川かりがね橋の開通と開通後の新たな取組について 富士川かりがね橋はいよいよ今年度開通を迎える。 工事状況を見ても、誰もが開通間近と認識し、最終段階に 来たことを認識している。</p> <p>平成14年の都市計画決定以来、20年を超える時が過ぎ、特 に地元の松野・木島地区の住民は本当に感慨深い。</p> <p>富士川かりがね橋開通の効果を波及させるため、開通を契 機に地域の魅力を発信し、開通に合わせ新たな取組を強化し ていくことが重要である。</p> <p>この富士川かりがね橋の開通について、以下何う。</p> <p>(1) 今年度開通の予定だが、開通の時期については予定どお りか、また、開通日の発表についてはいつ頃になるのか。</p> <p>(2) 開通の式典及びイベントに市はどのように関わり企画し ていくのか。</p> <p>(3) 開通後の富士川かりがね橋を利用した交通機関につい て。</p> <p>① 特に高齢者や運転免許証返納者など車を利用していな い方への交通手段としての公共交通機関はどのように考 えているのか。</p> <p>② 若い世代の高校生たちの通学路として考えたときに、 自転車及び歩行者にはとてもよい橋だと思うが、特に富 士市東側に位置する富士市立高校への通学手段として、 橋を利用したスクールバスなどの運行は可能か。</p> <p>(4) 富士川かりがね橋の西岸に位置する富士川地区には富士 川楽座や富士川体育館、西消防署富士川分署、学校給食セ ンターなどの施設がある。特に富士川体育館は駐車場も多 くあり、利便性もよいスポーツ施設である。体育館の北側 にはスケートボード練習場もできており、この橋の開通に 合わせて、富士川体育館をスポーツの拠点の中心として、 サイクリングの休憩地点及び体育館前の河川敷に特に競技 人口が増えてきているグラウンドゴルフ場の整備を提案す るがいかがか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長